

維持透析患者の自己管理に対する意識の変化

～ペプロウの人間関係論を用いて看護介入を分析する～

キーワード：透析患者・自己管理・ペプロウの人間関係論

西 2 階 ○高橋有子

1. はじめに

透析療法を受ける患者数は、年々増加傾向にあり、当院でも昨年110名が導入となっている。透析患者は生涯にわたって透析を継続し、合併症予防のためにも食事管理や日常生活の管理をしていくことが必要である。

導入期に透析の知識や自己管理面での指導を行っているが、生涯継続していく過程においては、患者を取り巻くさまざまな環境・精神面・社会問題で、透析療法の自己管理において、ノンコンプライアンス状況に陥る患者もおり、再指導が必要となってくる。

対象は透析導入時より、いずれ腎移植を行なうという方針が立っていたが、手術直前になって免疫抑制剤の副作用の出現により中止となり、現在も透析を継続している患者である。導入期の指導は行なわれていたものの、自己管理面、主に食事管理に問題があった。当時のT氏は「透析のこと、自己管理のことなどいろいろ考えたくない」という逃避の気持ちで生活していた。

ヒルガード・E・ペプロウは「人間関係の看護論」のなかで、“看護は患者にとってより望ましい状態に向けて、看護師と患者との対人的プロセスの中で行なわれる”ととらえている。

効果的な指導は、人間関係が良好でないと成り立たない。今回看護師と患者に良好な人間関係・信頼関係が生まれていくことで、患者が自分の問題を認識し、自身の自己効力が高まり、自己管理を積極的に行おうと意識に変化が起こり、改善していく行動に変わっていき、コンプライアンス状態へと導かれたことを経験した。氏の自己管理に対する行動変容を、ペプロウの人間関係論で分析し実施した看護を評価したところ有効だったので、

報告する。

2. 研究の概念枠組み

ペプロウの人間関係の看護論

「看護師と患者が、お互いを同等ではあるがまったく異なる人間として、知り合い尊敬しあうようになるとき、看護のプロセスは教育的、治療的なものになると思われる。」とペプロウは言っている。看護師・患者関係の治療的な対人的プロセスには、4つの段階がある。

- ・方向付けの局面
- ・同一化の局面
- ・開拓利用の局面
- ・問題解決の局面

更にその関係の中で、看護師が果たすべき6つの機能や役割が挙げられる。

未知の人、情報提供者、教育者、リーダー、代理人、カウンセラー

看護師は目の前にいる患者の状況を見極め、看護師・患者関係の各段階や患者の状況に応じた役割を果たすことが求められる。

3. 研究方法

1) 研究デザイン 事例研究

2) 研究期間

H.15.4.1～8.30

3) 分析方法 ペプロウの対人的プロセスにおける4つの段階に沿って、患者の言動・行動を各場面で記述していき、その結果をもとにペプロウの人間関係論を使って分析していく。

4) 倫理的配慮 患者へ看護の向上の

ために看護研究に取り組むことを伝え、意思を確認し承諾を得た。氏名はイニシャルを使い、プライバシーの保護を行なうことを説明した。

5) 対象紹介

T氏 24歳 男性
原疾患 糸球体腎炎
現病歴 13歳頃たんぱく尿出現
腎生検2回受ける その後定期フォローは受けていた 冬になるとインフルエンザに罹患し、腎機能悪化のためその都度入院

- ・H13.1.1.3 緊急透析導入
- ・H13.1.1.6 シェント造設
- ・H13.1.1.2.3 当院昼外来維持透析となる
- ・H14.4.2.3 母親をドナーに生態腎移植のため入院するが、水痘のため手術延期となる
- ・H14.9.1.1 再度生態腎移植のため入院するが、免疫抑制剤副作用で手術前日中止となり、再び当院外来維持透析となる

家族背景、

両親と3人暮らし

兄と妹は死産であった

父親 76歳 母親 64歳

職業 デザイン関係の仕事(過去3回入院のたび職場をやめ転職しなければならなかった経緯をもつ)

2度も腎移植が中止となることを経験したT氏を、外来維持透析再開から6ヶ月経過した時期にプライマリーとなる。それまでの看護記録に、「あの時のショックが忘れられない」「このままずるずる透析していくのか」「HDをやめてほしい。きつい。」「死んだほうがまし」「仕事が忙しくて眠れていない。ストレスがたまる」などの記録がされていた。

4. 結果・考察(表1参照)

5. 結論

- 1) 方向付けの段階では、患者に関心を持ち患者の感情を表出できるようにかかわることで、患者は自分のおかれている状況が理解でき、困難な健康問題を解決するために歩き始めた。
- 2) 同一化の段階では、患者の疑問に対して正しく丁寧に答えながら情報提供していくことで、看護師に対して自由に感情を表出することができ、問題解決に向かって立ち向かうための信頼関係が築けた。
- 3) 開拓利用の段階では、栄養士などを紹介し、患者の利益となるようにすることで、患者は周りの人を活用し自己管理を積極的に行ない始めた。
- 4) 問題解決の段階では、患者の自立を賞賛し、努力を認め、自主的にやれていることで自信を持たせた看護介入が良かった。
- 5) 自己管理面でノンコンプライアンスの状況にある患者に対して、ペプロウの人間関係論を用いて看護師が巧みに心理的なニーズを解釈し、それらを満たしたときの対人関係プロセスは、患者の行動変容を高め、治療に効果的であった。

6. おわりに

長い透析人生において、はじめは意欲を持って自己管理していても、一生涯それを持続させることは困難な場合もある。今回の事例で看護師は患者にとって教育的な成熟を促す力となれることを学んだ。その経験を生かして今後もさまざまな背景にある透析患者が、ノンコンプライアンス状態に陥っても良い人間関係を築くことで、健康問題の解決ができるよう効果的にかかわっていききたい。

引用・参考文献

- 1) 稲田八重子 訳: ペプロウ人間関係の看護論 医学書院 1996年
- 2) 黒田裕子: やさしく学ぶ看護理論 55~69、日総研出版、1998年

表1 結果・考察

諸局面	時期	患者の状況・行動	看護師の役割	看護介入・結果	考察
方向づけの段階 4月第1週～4週	プライマリ ナーズにな ってから 腎移植中止 の精神的な 苦痛を表現 するまで	「どうでもいい、何も考えたくない。」 「なんか生活がぐちゃぐちゃで。」 塩分制限に関心がなく血圧が高値を示してい る時期 (SBD180～200mmHg/DBD95～ 110mmHg) HD中はほとんど会話を待たず入眠して過ご す 表面的には穏やかであるが自暴自棄 看護師に対して自発的に質問してくる	未知の人としての 出会い カウンセラー	移植中止の落胆・精神的なダメージに対する心境を 傾聴し、生育歴・親子関係・疾患に対する思いを情 報収集した 透析や自己管理面での知識不足のための学習を計 画した 導入時の心境や腎移植中止の心境など精神的な苦痛 を表現していった 血清リン 6mg/dl前後 「あのころはきつかったです。何もやる気が起こら なかった。」	腎移植中止になってからの気持ちを自分の中で整理す ることなく心の奥にしまいこんで生活していた氏に、未 知の人として丁寧に積極的な関心を持ち、接したこと で精神的苦痛を表現し、移植が遠のいた今の状況を理解し これからの透析生活で自己管理をやっていくとうとする 意欲が新しく芽生えてきたと思われる。
同一化の段階 5月	看護師への 自由な感情 表出から自 己管理への 関心がもて るまで	血圧の値や検査データに関心が高まる 「いろいろ自分のからだを心配してくれてう れしい」 「透析を受けているからには、きちんと毒素 は抜けて欲しいです。」	情報提供者 教育的役割	自己管理に向けての再教育をした 検査データや服薬についての指導を行なった 自分のデータ(血圧、リン、カリウム、カルシウムな ど)に関心をもち生活の振り返りを行い、改善点も 自ら見出していた 「改めて勉強できてよかった」 ダイアライザー 膜面積を変更し、透析効率をチェックしていった	再指導を行なうことで、自分のデータの示す問題点を自 由に尋ねはじめ、関心は深まった。また、看護師に対し て自由に感情を表出することができ、問題解決に向かっ てともに立ち向かうための信頼関係を築いていくこと が出来たと思われる。
開拓利用の段階 6月上旬～7月上旬	自己管理へ の意欲表出 から情報の 活用まで	自宅での血圧測定記録・運動と血圧につい て関心を調べる「3日間無塩食にして血圧の 変動が起きるかやってみた。」 同シフトの患者と会話はずむ	情報提供者 教育的役割 民主的リーダース ップ	栄養調査や栄養指導をおこなった 同シフトの患者紹介・透析ベッドの場所を考慮した 栄養調査票の記入・食料・調理法の工夫の指示 HD時の夕食は自分で手作りの弁当を持つてくる	色々な情報を得て生活を改善したいと思っている氏に、 環境を整えていくことは効果的であったと考える。 周囲の人を活用できている。
問題解決の段階 7月～8月	自己管理に 対する自信 の獲得から 行動変容ま で	血圧管理に自信がもてる・自己管理していく 強い意志がもてる「血圧の薬が減ったのがと てもうれしい。今の血圧でいけるよううにがん ばる。」「運動の計画表を作ってやっている。」 HD中デザインの勉強を行なう	大人同士の対等な 関係	自己管理に対する意欲を評価し、励ます 新しいアイデアを見守り達成できるよう援助した 降圧剤の減量・運動計画表の作成・実施 SBD130 ～140mmHg/DBD60～70mmHg 血清リン 3.4～4.6mg/dl 「6時間透析をしつ かりやります。」	ペプロウは問題解決を、「自主的に問題を解決していく、 基本的には自由になるプロセスである」と述べている が、氏も自分の健康問題に自主的積極的に取り組み、自 分で自分を管理できるといふ自信がもててきた。 健康問題の解決に向けて効果的にかかわれたと考える